



～体験を通して学ぶ～

通勤途中の田は黄金色の稲穂で揺れ、収穫の時を待っているようです。小学校の頃、一日中家族総出で稲刈りをしたことを思い出します。私の仕事は、稲束を抱えて運ぶこと、高く組んだはぜの上にいる父に稲束を渡すこと、そして、最後に、一本一本落穂拾いをするのでした。末っ子の私は、小さくても一人前に仕事を任せられたこと、終わって終わった後褒めてもらえたうれしさで、次の日も家族と一緒にがんばれたような気がします。また、手伝いをしながら、米作りの大変さを感じたり、季節の草花や生き物と遊ぶ楽しさを見つけたりもしていました。

子どもは、いろいろな自然や人・社会等の対象とかかわることにより、五感を通して、対象に関する様々な知識や技能（知）を獲得していきます。このような学びが成立するためには、対象とただかかわるだけではなく、意図をもって対象に働きかけ、それらを総合的にまとめ、学んでいくことが必要となるそうです。

そこで、学校での体験活動は、「活動のめあて→見通し（方法）→活動→まとめ→振り返り→日常生活（学習）への活用」という流れで行っています。自分たちでめあてや見通しがもてると、子どもたちの意欲はぐんと高まってきます。

子どもたちの豊かな体験活動が、学校で、家庭で、地域で広がり、心身の確かな成長につながることを期待しています。

【9/16～17 4年生 山の学習】

由加山にある倉敷市少年自然の家で、初めての一泊二日の宿泊研修。「友情」「奉仕」「規律」をめあてに、火起こし体験、ウォークラリー、写真立てづくり、キャンドルサービスなど、友達と協力しながらたくさんの体験をしてきました。



ウォークラリーは、ゴールまでの時間を決め、途中にある問題を解きながら地図を片手に進んでいきます。あまり道に迷うこともなく全員無事にゴールできたのは、「自分たちで何とかやっていかないといけない」という強い思いがあったからできたことでしょう。集めた木の実でオリジナルの「写真立て」も作りました。

金光さつき図書館に12月まで山の学習の掲示がありますので、行かれたらごらんくださいね。

【10/2 3年生社会科見学】



3年生は、社会科で浅口市の学習をしています。金光町・鴨方町のそれぞれの特徴を調べようと、たくさんの質問を考えて行ってきました。鴨方町では、かも川手延素麺会社へ行き、工場の手延べうどんができる様子を見学したり、実際に自分たちで手延べうどんづくりをしたりしました。うどんの生地を30分くらい箱に入れて熟成させると、ぐーんと伸びることに驚きながらも楽しそうに作業をしていました。できたてのうどんは、その場でいただきました。つるつるととてもおいしかったです。

金光町では、佐方の東居梨園で、1年間を通して仕事があること、8月～12月まで収穫できるようにいろいろな種類の梨を栽培していることなど、梨づくりの工夫を聞きました。そして、最後に梨狩りを全員させてもらい、どの梨にしようかなと真剣な表情で選んでいました。食べてみると甘くてびっくりしました。大変お世話になりました。